

13 気候変動に
具体的な対策を



SB62報告： 適応に関する議論と動向

特活)「環境・持続社会」研究センター (JACSES)
気候変動プログラムリーダー/事務局次長 遠藤理紗
endo@jacs.es.org

団体・自己紹介

「環境・持続社会」研究センター（JACSES）

- 1993年設立、2003年特定非営利活動法人（NPO法人）格を取得
- 持続可能で公正な社会の実現を目指し、幅広い市民と専門家の参加・協力のもと、調査研究・政策提言・情報提供等を行うNPO/NGO
- 現在、以下のプログラム・プロジェクトを推進
 - ・気候変動プログラム
 - ・SDGs（持続可能な開発目標）・SCP（持続可能な消費生産）プログラム
 - ・持続可能な開発と援助プログラム
 - ・持続可能な社会と税財政プログラム 等
- これまでの主な成果
 - ・財務省NGO定期協議の設立と事務局担当
 - ・ODA・途上国開発プロジェクトの環境・社会面での変更・改善
 - ・JICA・JBICのセーフガード政策・住民の異議申立制度の実現
 - ・地球温暖化対策税制の制度設計提案と導入の実現
 - ・気候変動緩和（CO2以外のGHGを含む）・適応を推進する政策の実現 等

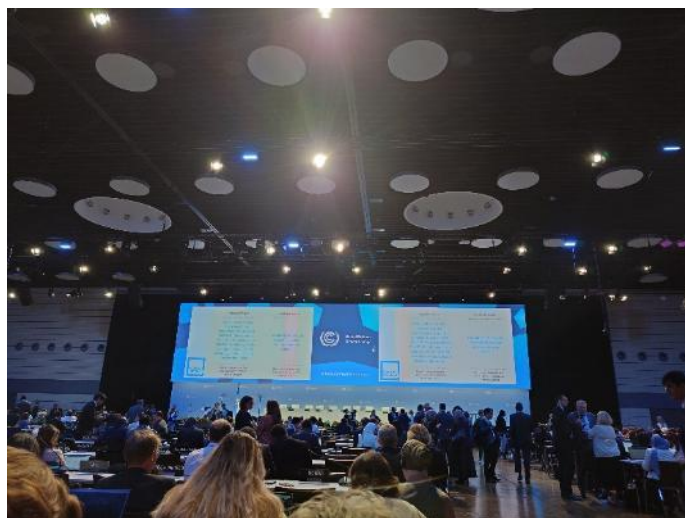
遠藤理紗（えんどう・りさ） JACSES事務局次長・気候変動プログラムリーダー

保険・エネルギー関連の民間企業勤務を経て、2014年からJACSESスタッフ。気候変動・SDGsに関する政策提言、普及啓発等に従事。ESD活動支援センター企画運営委員、SDGs市民社会ネットワーク事業ユニット幹事会議進行役、Climate Action Network Japan役員、W20（Women 20）日本デレゲート、2023年C7（Civil 7）気候・環境正義ワーキンググループ共同コーディネーター等も務める。マンチェスター大学修士課程修了。

1. 国連気候変動枠組条約第62回補助機関会合（SB62）概要

2025年6月16日～26日にドイツ・ボンで開催。

- ・ **SB62前の注目 이슈**：緩和野心実施作業計画（MWP）、GST（グローバル・ストックテイク）の実施に関するUAE対話、公正な移行に関する作業計画（JTWP）、世界全体の適応目標（GGA）、1.3 兆ドルに向けたバクー・ベレン・ロードマップなど
- ・ **議題採択の大幅な遅れ**：ボリビア（中国等を含むLMDCsとして）が、貿易制限的な一方的措置（SBSTA・SBI）及びパリ協定9条1項先進国から途上国への資金供与の実施（SBI）に関する議題を提案。提案議題の取り扱いをめぐって議論に時間が掛かり、一旦、1日目夜に開会セッションが開始されるも、結論が出ず2日目に持ち越し。2日目夕方に再開し、代替策を決定して議題を採択。
- ・ **MoIへの支援**：途上国からMoI（実施手段、パリ協定第9～11条に規定されている資金・技術・キャパシティビルディング）への支援要請があらゆる議題で行われた。



1. 国連気候変動枠組条約第62回補助機関会合（SB62）概要

- **入手可能な最新の科学的知見の提供**：適応に関するSBSTA議長とIPCCのイベントや第17回研究対話等、科学的知見のインプットが多く見られた。
- **進捗の促進的な多国間検討（FMCP）実施**：強化された透明性枠組（ETF）に基づき、[1回目のFMCPワーキンググループ会合](#)を開催。（2024年末までに最初の隔年透明性報告書（BTR）提出が求められており、3か国がNDC等について経験を共有。）
- **非国家アクターの参加**：計9,486人参加登録。登録者の内訳は、Parties 3,292、Parties overflow 944、UN組織も含むObserver organizations 3,046（うち Non-governmental organizations 2,393）。
- **次回以降の開催国**：2025年COP30はブラジル・ベレンで開催。2026年COP31はオーストラリアとトルコが立候補。



2. SB62での適応に関する議論

適応に関する世界全体の目標 (Global Goal on Adaptation: GGA)

<背景>

- ・ パリ協定第7条で世界全体の適応目標(**気候変動への適応に関する能力の向上並びに気候変動に対する強靱性の強化及びぜい弱性の減少**)を設定。
- ・ COP26で2年間の「**GGAに関するグラスゴー・シャルム・エル・シェイク作業計画 (GlaSS)**」を設立し、年4回のワークショップでGGA進捗評価などについて議論することに合意。COP27で、GGAの枠組をCOP28での採択に向け議論を開始することが決定。
- ・ COP28でGlaSSが終了、成果として「**UAE Framework for Global Climate Resilience(グローバルな気候レジリエンスのためのUAE枠組)**」を採択。テーマ別(a.水、b.食料・農業生産、c.健康、d.生態系・生物多様性、e.インフラ・人間居住、f.貧困撲滅・生活、g.文化遺産)目標、適応サイクル(a.影響・脆弱性・リスク評価、b.計画、c.実施、d.モニタリング・評価・学習)目標を設定。これらの進捗評価指標を検討する2年間の「**UAE-Belém work programme(UAE・ベレン作業計画)**」設置も決定。
- ・ COP29では、①**UAE・ベレン作業計画**にて2025年CMA7で指標の最終リストを決定することを確認し、作業完了に向け、指標に関する専門家への追加的指針を提示。SB62の4週間前までに指標オプションの統合リストと進捗報告書作成・発行等が決定。②GGAの取組支援のための**バクー適応ロードマップ (BAR)** 設置を決定。③**変革的適応**については、事務局によるCOP29前の報告書の要約・国連6公用語への翻訳、SB62において検討を継続。

2. SB62での適応に関する議論

<結果>

- 初日（6/16）にUAE・ベレン作業計画の下でWSを開催し、各専門家グループ（7分野＋適応サイクル）から進捗報告及び5月に公表された[指標リスト案](#)に対する各国からのフィードバック等が行われた。
- 交渉は指標に関する議論が多く、最終日夕方まで結論がまとまらず、SB議長との協議へ。最終的に、11月ブラジルCMA7でのGGA指標採択に向け、指標数・構造、専門家への追加ガイダンス、CMA7までのタイムライン、WS開催等を含む[結論文書](#)を採択。BAR・変革的適応とCMA7決定案の要素については、非公式文書（インフォーマル・ノート）の形で議論経過が残された。
- 以下、結論文書より；
 - ✓ 各ターゲットへの取組は、国主導・自発的・各国の事情に沿って実施され、持続可能な開発・貧困撲滅を考慮し、締約国間の比較の根拠となつてはならない。
 - ✓ 適応行動は、継続的・反復的・漸進的で最良の科学に基づき、科学に基づく指標等の使用、適切な場合、伝統的・先住民族・地域の知識、EbA・NbS、地域・コミュニティ主導の適応、防災減災、交差アプローチ、民間セクターの参加、気候変動への不適応回避、適応のコベネフィット・持続可能な開発を含む。
 - ✓ UAE・ベレン作業計画の最終成果は、可能な場合、特に社会的包摂・先住民族・参加型プロセス・人権・ジェンダー平等・移民・子どもと若者・障がい者に関する情報を捉える指標、子ども特有の脆弱性をテーマ別目標に反映する指標、教育と子供・若者の健康に関する横断的な指標を含む。

2. SB62での適応に関する議論

- ✓ UAE・ベレン作業計画の最終成果は、各ターゲットの達成に向けた進捗評価を支援し、パリ協定7条1項及び2条の長期的な温度目標と一貫するものがあること。
- ✓ 各グループ専門家は、現状の指標リスト案からグローバルに適用可能な100以下の指標に削減（適応行動の実施を促進する要因、MoI、分野横断的事項、ターゲットに関するサブ要素含む）。
- ✓ 各グループ専門家の作業はSB62終了後すぐに継続し、指標の削減・精緻化はこれまでのガイダンスに則って行われ、現状のリスト案にあるいくつかの指標はガイダンスとさらに整合させる必要がある。
- ✓ 各グループ専門家は、SB62とSB63の間に開催予定のWSに先立ち会合を開催する（ガイダンスとの整合性検証・ピアレビュー・指標の質チェック等を実施）。また、8月に方法論や指標リスト案を含む最終技術報告書を提出する。
- ✓ UNFCCC事務局は、上記報告書及び指標リスト案をSB62とSB63の間に開催予定のWSの少なくとも3週間前に公表する。
- ✓ UNFCCC事務局は、専門家会合に関するサマリーレポートをWS開催前に作成し、WSに関するサマリーレポートを11月CMA7前に作成する。
- ✓ SBSTAとSBIは、[非公式文書](#)に基づき、CMA7での審議・採択に向けた決定案の提案を視野に入れ、SB63でGGAに関する項目の審議を継続することに合意。

2. SB62での適応に関する議論

✓ 各グループ専門家は、以下の追加ガイダンスを考慮する。

15. The SBSTA and the SBI requested their Chairs to invite the experts, in reducing and refining the indicators, to take into account the following additional guidance, as appropriate:

(a) All entries in the final list of potential indicators are to be phrased as measurable indicators rather than statements;

(b) Indicators that describe impacts, exposures or hazards without capturing adaptation relevance are to be refined;

(c) Existing indicators derived from other conventions and frameworks are to be made adaptation-specific;

(d) Indicators for measuring climate change mitigation are to be removed;

(e) Indicators that capture adaptation responses to risks and impacts associated with different warming scenarios in the context of the temperature goal of the Paris Agreement are to be included;

(f) Qualitative narratives are to be included, where possible, to explain the context behind some of the quantitative statistics;

(g) Sub-indicators should capture various contexts of adaptation action, enabling Parties to choose which indicators they will report on in the light of their national circumstances;

(h) Indicators for means of implementation and other factors that enable the implementation of adaptation action are to be included, and those that are not relevant to the Paris Agreement are to be removed;

(i) Indicators for means of implementation to measure (1) access, (2) quality and (3) adaptation finance, including provision, in line with the Paris Agreement, to help Parties address needs and gaps in implementing the global goal on adaptation.

2. SB62での適応に関する議論

適応報告書（Adaptation Communications: Adcom）

- 背景：パリ協定7条10項及び11項で適応報告について規定。CMA1は締約国に対し、決定9/CMA.1に記載するガイダンスの適用経験に関する情報を2025年2月までに提出するよう求めており、事務局が統合報告書を作成。これらを考慮し、CMA7でガイダンスを評価・必要な場合に改定することとなっていた。CMA7での審議・採択に向け、SBIは審議を継続。
- 結果：CMA決定案を含む[結論文書](#)を採択。ガイダンスレビューを延期し、SB64（2026年6月）で作業時期（締約国からのガイダンス使用経験に関する情報提出、事務局の統合報告書作成、ガイダンスレビュー・改定）に関する審議を継続。

国家適応計画（National Adaptation Plans: NAP）

- 背景：SBI60（2024年6月）にてNAP策定と実施プロセスの進捗状況の評価を開始、非公式文書を考慮しつつ、SBI61（2024年11月）での審議継続を決定。SBI61はCOP29の審議に送ることと合意し、COP29にて、COP30での審議・採択に向け、SBI62において審議を継続することが決定。
- 結果：COP30での審議・採択に向け、SBI63（2025年11月）において、[今回のテキスト](#)に基づき審議を継続することが決定。

適応委員会（Adaptation Committee: AC）の報告・レビュー

- 背景：ACは毎年SBを通じCOPに報告。SB59（2023年12月）で2023年AC報告とACの進捗・有効性・成果に関するレビュー検討を終了できず。SB60でも議論を継続し、COP29とCMA6が2023年AC報告に留意すること、SB61で引き続きACの進捗・有効性・成果に関するレビューの検討を行うこと、報告とレビューを別々の議題小項目で議論することに合意。COP29では、SB62においてACレビューに関する検討継続に合意。
- 結果：合意に至らず、ルール10(c)・16適用でSB63議題に含まれることが決定。

3. SB62でのその他議論・動向

ジェンダーと気候変動

<背景>

- SBI60で、強化されたジェンダーに関するリマ作業計画（eLWPG）とジェンダー行動計画の最終レビューを開始。COP29は、**eLWPGの10年延長**を決定。
- COP29は、SBI62に対し、2024年のeLWPG・GAPレビューへのインプットやその成果、SB62で開催する技術WSを考慮に入れ、新たなGAP策定を開始するよう要請。

<結果> ※[結論文書](#)より

- SBIは、新たなGAP策定を開始。
- 2025年中に既存イベントと合わせて、新たなGAPに関する他の対面またはハイブリッド形式のWS開催も可能であることを再確認。
- SBIは、COP30における審議・採択に向けて、新たなGAPに関する決定案の提案を視野に入れ、今回の[非公式文書](#)を基にSBI63（2025年11月）での審議継続に合意。

技術実施プログラム(Technology implementation programme: TIP)

<背景>

- CMA6はTIP策定プロセス開始を決定し、今回のテキスト・議論に基づき、SBI62での検討を要請。CMA7での検討・採択に向け、TIPのさらなる精緻化について議論。

<結果>

- 結果：合意に至らず、ルール10(c)・16適用でSB63議題に含まれることが決定。

3. SB62でのその他議論・動向

様々な会合も開催された（以下、一部）

- 6/16 : Workshop under the United Arab Emirates–Belém work programme on indicators for measuring progress achieved towards the targets referred to in paragraphs 9–10 of decision 2/CMA.
<https://unfccc.int/event/gga-hybrid-workshop-under-the-united-arab-emirates-belem-work-programme-mandated-event-0>
- 6/20 : Special event with the Intergovernmental Panel on Climate Change <https://unfccc.int/event/gga-sbsta-chair-ipcc-event-on-adaptation-mandated-event>
- 6/21 : Baku Dialogue on Water for Climate Action
<https://unfccc.int/event/baku-dialogue-on-water-for-climate-action>





様々な研究成果のポスター@会場ロビー



気候変動とジェンダーイベントに登壇したブルキナファソのアブゼ・ジグマ王女



サイドイベントも数多く開催



会場外でNGOが配布していたヴィーガン料理



GGA交渉部屋の外で行われたアクション

3. 今後に向けて

- COP30でのGGA指標合意に向け、会合間WS等の機会を活用した更なる意見のすり合わせが必要。
- COP30でMoI（実施手段）に関する議論をどう取り扱うのか。
- 各国目標・取組の促進や世界の温室効果ガス削減へのGST成果（特に緩和）の活用
- 気候変動対策がもたらす経済・社会（特に人々の生活）への利益をどう提示していくか。（COP30議長レター“connecting the UNFCCC to peoples' lives ”をどう示すか。）
- 2028年第2回GSTに向けて、隔年透明性報告書（BTR）の経験・課題の共有、及び、衛星データ等も活用したパリ協定の透明性確保のための報告支援。

COP30議長国
ブラジルは
“Global Mutirão
（ムチラオ）”を提唱





ご清聴ありがとうございました

- 「国際社会の気候変動緩和野心向上とレジリエンス強化のための「日本の施策と国際発信」に関する提案 ～国連気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）を機に～」 <https://jacs.es.org/2558/>
- 「日本発の気候変動適応・ロス&ダメージ対策推進のための提案～国際社会のレジリエンス強化に向けて～【資料付き】」
<https://jacs.es.org/report/2389/>
- JACSESウェブサイト (<http://jacs.es.org/>)
- JACSES気候変動/SDGsチームインスタグラム (jacs.es_climate_sdgs)